

関市新指定文化財

片山古墳群 ～関市唯一の前方後円墳～

- 種類 史跡
- 員数 2基（片山西塚古墳、片山東塚古墳）
- 所在地 関市小瀬550番1
- 所有者 関市
- 指定理由

片山西塚古墳は関市唯一の前方後円墳であることから、武儀地域の古墳時代を考える上で重要であり、片山東塚古墳と共に保存し活用すべき歴史遺産である。

片山西塚古墳は、平成15年に発掘調査（範囲確認調査）され、全周しない壕を伴い、竪穴系の埋葬主体部を持つ前方後円墳であり、前方部の右隅角は、いわゆる「隅切り」形、左隅角は緩い傾斜の「墓道」であることが明らかとなった。墳丘の長さ22.3m（主軸線上で計測）、後円部径14.9m、高さ2.1m、くびれ部幅11.5m、前方部長さ10.1m（主軸線上で計測）、高さ1.7m、前面の幅14.5m（前面は主軸に対して斜交しており、前方部は「隅切り」側が短く、「墓道」が長い）である。一方、片山東塚古墳は円墳であるが、規模は片山西塚古墳の後円部とほぼ同じである。これらは5世紀の半ば頃に築造されたと推定される。



片山西塚古墳



滑車

岡田式渡船

岡田式渡船関係資料 ～岡田只治の偉業～

- 種類 有形文化財（歴史資料）
- 員数 3点（木造船1点、滑車1点、櫂1点）
- 所有者 保戸島協議会
- 指定理由

岡田式渡船は関市保戸島出身の岡田只治の偉業を顕彰すると共に地域が残してきた大切な資料を今後も保存し活用すべき歴史遺産である。

岡田式渡船は岡田只治（嘉永3年（1860）、戸田村（現関市戸田）生まれ）によって、考案された渡し船である。岡田式渡船は川の流れを利用して動く。両岸に頑丈な柱を立て、それに滑車を通したワイヤーロープを張り渡し、滑車と船をへさきの左右に取り付けた金具のどちらか一方にフックをかけて繋ぐ。こうすることで、流れに対して角度が付き、側面に当たる水の勢いで船が押しやられる。フックの左右を変えると、反対方向に進む。岡田式渡船は明治33年に考案され、保戸島村の戸田渡船で使われた。翌34年に加茂郡太田町木曾川渡船場に設置、その時に県知事から岡田式渡船と命名された。明治36年に岡田式渡船装置の特許を得て、全国に普及した。岡田式渡船関係資料は明治時代の渡船の歴史を伝えている貴重な歴史資料である。